

ちばしや通信

Vol.22



画 くさびら八郎

【トピック】

- | | |
|---------------------|---------------|
| ♪ 「災害時の福祉・介護支援を考える」 | ♪ つれづれなるままに |
| ♪ 「心地よい関係性のバランス」 | ♪ 各種イベント案内 |
| ♪ 私の子育て奮闘記 | ♪ “ときがね”なひととき |
| ♪ 起業・就労・支援の間で… | ♪ 法人からのお知らせ |

災害時の福祉・介護支援を考える

熊本地震での救援活動から①

平成28年4月14日に発生した

熊本地震は、熊本県と大分県の一

部の市町村を中心に局所的ではあるが、大きな被害をもたらしました。

そして、震災発生から4カ月が経過し、地震活動は、減退しつつも現在も続いており、地域に暮らす人たち、特に福祉的な支援を要する人たちの生活に支障をきたしています。

発生から復興に向けて、長く続く支援、災害が発生した際、福祉・介護の専門職・事業所は、どんな視点で、どのように支援していくことが大事なのか？、熊本の支援から考えてみたいと思います。

今号と次号は、発生後2週目に千葉から支援に入った青柳澄さん（ひぐらしのいえ・松戸市）の活動レポートから考えます。

◆日時：平成28年4月25日（月）

（29日（金））

◆場所：①いつでんきなっせ

（熊本市東区）

②小規模多機能ホーム

健軍暮らし支えあい

工房（熊本市東区）

③小規模多機能ホーム

あんず（益城町）

④益城町総合体育館

（益城町）



（派遣メンバー）

全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会の要請があり、ちば地域密着ケア協議会の立場で支援に入った。熊本には東日本大震災以降、D C A T (D M A T の介護 care 版) という組織があったのだが、機能できないという事態があった。連絡会では、熊本の事業者連絡会の代表でもある川原さんが、このD M A T を再組織して活動することになった。

要請を受けて、全国の各都道府県連絡会からスタッフが派遣された。1クールに6人の活動メンバーと1人のコーディネーターという組み合わせ。主に九州の事業所が多かったが、福岡、鹿児島、新潟、千葉で、職種はケアマネ、グループホームの管理者や介護福祉士など。私が活動したのは、この団体の1クール目で、何から手を付けたらいいのか、どんな支援ができるのか手探り状態の真ただ中であつた。

被災された要援護者は、福祉

避難所へ行くか、遠く離れた特養に行くか、無理してでも家族が見るか、といった選択肢しかない。特養に行ってしまうと、住み慣れた土地に帰ってくるのはかなり難しくなる。被災したけれど、建物が残っている小規模多機能施設であれば、たとえば仮設で家族が介護を続けても、訪問、通い、お泊りを組み合わせたサービスで、自宅を再建できたときに地域に戻るのである。そういう、地域の拠点にすべく小規模多機能施設の事業所支援をすることが、この団体の支援の方向性となった。

・被災地域の状況把握

被災地域は限定的で、益城町などの本場に大きな被害があるところは、家屋が全壊し、水道ガス電気などのライフラインもいまだに復旧できていない、信号も警察の人力で交通整備をしているほどだった。しかし、そこから車で5分くらい行くと、コンビニもやっているし、10分



行けばライフラインが開通して普通の生活を取り戻していた。「危険」と赤紙を貼り出されている家屋は、特に都市ガスのメーターがごとごとく倒れ、これが復旧の妨げとなっていた。水の国、熊本と言われていたように、一般家庭でも井戸水があるところが多く、「ご自由にお使いください」と貼ってあるくらい、震災から10日経ったときには、水不足は感じとれなかった。ただ、益城町から阿蘇方面に行く道路ではTVの放映でよく見たような、道路が寸断さ

れていたりと、危険な個所もたくさんあった。

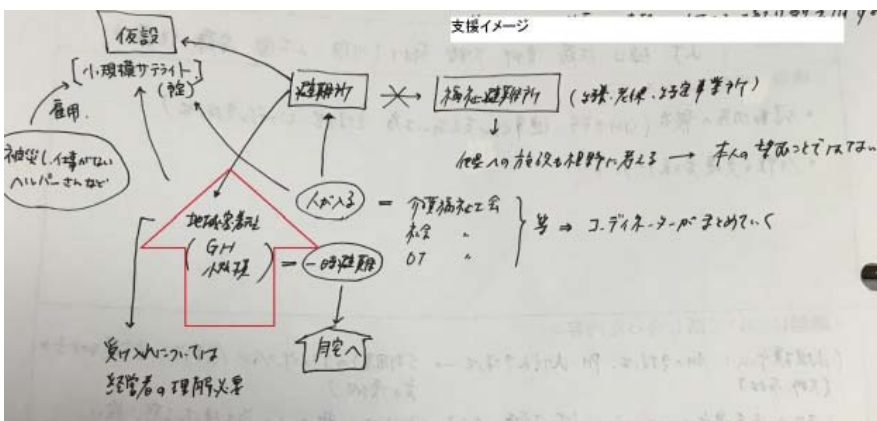
・被災地域の小規模多機能施設の状況把握・事業所支援

いつでんきなつせは、益城町からほど近いところにある川原会長が代表を務める小規模多機能施設。震災当初はライフラインもなく、水と食料はなんとか自力で稼いで乗り切った。屋根にはブルーシートがかかり、エアコンやドアなどが地震で落ち、何部屋か使えない状況だった。支援に入った時はすでにすべてのライフラインがなんとかつながり（定期的な断水はあった）、なんとか日常を取り戻していた。いつでんきなつせは、全国から多くの物資が来ており、他の施設や避難所に配っていた。今回、支援チームが宿泊した場所はそこから10kmほど離れた北区だったが、ここは震災の影響がほとんどないところだった。

支援に行った「小規模多機能

ホームあんず」は、大きな被害を受けた益城町にある。広安小学校という避難所になっている学校の裏にある。今回、この団地で地域の拠点にしようという施設だ。スタッフもほとんどが被災し、避難所から出勤するスタッフも多いし、出勤できないスタッフもいて、なんとか出勤できるスタッフだけで回している状況。近所の人も夜が怖いから、と2組くらいが家族が避難所として利用していた。夜勤のできるスタッフも少なく、人員不足、介護力不足が喫緊の課題である。初日はいつでんきなつせの浴室に送迎し、介護度5のお二人の入浴介助にあたった。10日ほど入浴できていない人もおり、皮膚の汚れ、爪のお手入れが十分にできていなかった。次の日からは日勤・夜勤でスタッフが入るようになったが、事業所側（主に現場スタッフ）は一時的に人が増えたという認識でとらえられていた。後日、あんずのスタッフには、被災地

域の要介護高齢者のヒヤリングを地元の人たちで行ってもらうことが必要であること、そのために現場を空けていようようにこちらが支援にはいる事などを何度か説明をし、5月末まで継続的な支援を行うこととなった。
(次号に続く)



心地よい関係性のバランス

第9回 バランス調整の奥深さ

「100%か0か」

仕事柄、自閉症の人たちと過ごすことが多い。自閉症の人たちの障害特性を語る時に、モノトニックという言葉がよく出てくる。たくさん情報を一度に処理することが苦手というようなことを説明する言葉だ。回線が1本しかないので、1本つながるとほかはうまく機能しなくなってしまう状態とでも言ったらいだろうか。だから逆に言うとうと、100%か0かという感じにも見える。つながった回線は100%のエネルギーで機能させているかのようだ。辞書を一冊暗記してしまったり、何十年も同じことに興味をもち続けたりする。にもかかわらず、つながらない回線はまるで存在しないかのように無関心だ。無視しているというより気づかないのだろう。電車のことは何でも知って

いるのに、家族の名前を知らないとか、ゲーム機のコントローラーの操作はすばらしいのに、ボタンのある服を上手に着ることができないとか。目的地に向かう道筋は一種類ではなく、何種類もあるなんてことを理解するのがとても難しい。そういう特性は、時に才能となり、時に生きにくさとなる。そして現実には、残念ながら生きにくさにつながることが多い。

「私もモノトニック？」

自閉症という障害はものすごく広い幅がある。最近では自閉症スペクトラムという表現をすることが多いのだが、世の中には自閉症の人とそうでない人がくつきり、はつきり分かれて存在するわけではなく、とても強い特性のある人から、自閉症特有の特性をもちながらも社会に

適応よく、ふつうに暮らしている人まで広い帯状になっているという考え方だ。そういう意味では、学んでいくと自分も部分的には自閉症スペクトラムのどこかに位置しているのかもしれない、と思うことがよくある。発達障害と呼ばれるものは、すべてがスペクトラムだと思う。誰もが、どこかに必ず引つかかる。そんな気がする。

私は基本的に一つに集中したいタイプの人間だ。できれば、ごはんを食べる時は、ごはんを食べ、テレビを見る時はテレビを見たい。そういう部分はかなりモノトニックなのだ。暮らしの中心に仕事を据えたら、仕事だけをしていたくなる。若い頃、音楽を仕事にしたいと思っていったことがあったのだが、あいにく才能には恵まれなかった。福祉の仕事に就いた時、どうしても趣味で音楽を続けることができなくて、音楽そのものを止めてしまった。

音楽をすると音楽のことで頭

がいつぱいになってしまった。適当に、いい加減に楽しめばいいのだけれど、これがどうにも難しい。基本的に私は何かに熱をあげると、一直線に没頭する。だから、多くの場合相当極めることになる。これは、確かに私の財産となっている。でも、それが生きにくさになることもある。仕事もきちんとして、趣味で音楽も楽しめばいい。そんな簡単なことが、当時の私にはとても難しかったのだ。とにかく全力投球がしたかった。そして私は福祉の仕事に没頭し、本当にたくさんのことを学び、多くの出会いがあった。そんな福祉漬けの日々が今の私を育てたと言ってもいい。なのに、20年近くそんな日々を過ごしてきたある日、突然何かが足りないように思えてきた。自分の半分をどこかに忘れてきたような、そんな気分なのだ。音楽がしたい……と思った。

「バランス調整の奥深さ」

バランスよく生きることが、豊かなことだと知っている。でも、世の中にはバランスよく生きることが何より難しいことだと感じる場面がたくさんある。バランスの悪さが、その人らしさをつくっていることさえある。バランス悪く没頭することで世紀の大発見があるのかもしれないし、バランスをよくしようとして、バランスを失う人もいるのかもしれない。そう考えると、バランス調整というのは、なんと奥深いものだろう。

実は最近、おそるおそる音楽を解禁してみた。今のところ、20年前のように暴走しそうな気配はない。年を重ねるとバランス調整もうまくなるものだと思いますが、なんだか少し寂しい気がする。若き日のあの情熱はどこへ行ってしまったのだろう…。

※この原稿は、Juntos(フントス)CLC発行の情報誌からの転載です。著者と発行者承諾のもと転載しています。

大友愛美 (おおともよしみ)

北海道生まれ北海道育ち、生粋の道産子です。大学卒業後、最初の福祉現場、知的障害者入所施設では地域と施設をつなぐコミュニケーションのような仕事をし、その後は地域で生きる人たちを支える仕事をしました。どちらの現場でも自閉症の人たちとの出会いが多く、たくさん悩み、たくさん学びました。

最近では、共生社会の実現を目指すNPO法人での仕事や、福祉の担い手を育てる場(学校や研修)での仕事をしつつ、自閉症など地域で生きにくい状況を抱えた人たちの相談や支援の仕事もしています。他の多くの人と違っていても排除しない、されない社会の構成員になるためには、学ばなければ、いろいろな人と一緒に暮らす練習が必要なのかもしれないな…と感じている今日この頃です。

『びっころ流』

ともに暮らすためのレッスン』

←1,600円+税 絶賛販売中←

※お求めになりたい方は、当法人までご連絡ください。



私の子育て奮闘記

「子どもと離れた時間がくれたもの」

子どもの療育を中心とした生活が春にはじまり、一通り試行錯誤して迎えた初めての冬の正月に、大学のスクーリングがあった。

私は、行動分析学を履修しているが、これは子供のために学ぶというよりは、行動分析学の考え方がとても面白くて、それを学びたかったから、というのが理由だった。どう面白いのかはここで説明しきれないが、人の行動の見方が今までの自分には全くない視点で、新鮮だったからかもしれない。

療育をスタートさせた春から、日曜日の夜に時々、夫に子供の寝かしつけをお願いし、近所のスタバに出かけて、そこで通信の教科書を開くのが、私の大事な時間だった。それを続ける中で、

自らのかわりに役立ちそうなヒントを得たり、実際にかかわってみた時の場面の新しい視点ができたりと、一週間の療育を振り返るにはちょうど良いのだ。そんな感じで普段は学び、スクーリングがとても楽しみだった。

大学のスクーリングでは立場が違う人たちではあるが、みんな同じ科目を学びたくて受講した人たちと知り合っ

た。短い時間ではあるけれど、普段一人で考え実践することが、ここでは、様々な視点で議論されたり、新しい知識を得たりと、本当に楽しい時間だった。

家に帰ってから、2日間まったく会えなかった子供たちの寝顔を見た。一緒に過ごせなかった2日間はさみしくもあるけれど、子どもとかかわるためにこの切り離された時間が、本当に自分には大切だったのだと思った。その2日間で自分の意識が変わった。

例えば、前に仕事をしていた時も、良いアイデアは職場で思いついたのではなく、休日のカフェで、旅先で、そんな切り離された時に思いつくことが多かった。

今回はスクーリングだったが、母親である自分が前向きに、明るくなることで本当に大切だと思った。このスクーリングを機に、次男の療育のプロگرامを組みなおし、マンネリ気味だったものを変えていくことができたという意味では、大事な出来事だった。

(おとめ)

連載

起業・就労・支援の間で…

「あなたに合わせた支援を星の数ほど」

(コミュニティワークス 理事長 筒井啓介)

前回、堂本暁子前千葉県知事も参加された福祉のタウンミーティングのことを書きました。今回はその後のことを書きたいと思います。

タウンミーティングでの私のやりたい放題の態度を知ってか知らずか(笑)、タウンミーティング終了後しばらくしてから千葉県の健康福祉指導課の担当者よりご連絡を頂き、堂本前知事のご意向でいくつか研究会を設置するのだが、その中の1つの研究会の座長を引き受けてもらえないかという依頼を頂きました。その研究会の名前は「あなたに合わせた支援を星の数ほどの研究会」。今もそうなのですが、当時は高齢者分野も障がい者分野も国や市町村による制度内サービスのみ提供事業者がほとんどでした。当然のことながら制度内サービスは利用対象者

やサービス提供内容に決まり制限があり、その地域で暮らす方々のニーズ全てに応えることができていないのが現実。県民1人ひとりが誰もがありのままにその人らしく地域で生活し続けるためには、制度の中のサービスだけではなく、制度の枠を超えた各事業所独自の福祉サービスを小学校区に1つずつ、まさに星の数ほど創出していく必要があるのではないかと、という仮説の基に作られた研究会でした。

今考えれば、これだけ大きなテーマの研究会の座長なんて…と思いますが、当時は世間知らずの25歳。特に深く考えもせず引き受けてしまいました。研究会は月に1回ほど千葉県庁内で開催され、研究会に参加される方の多くはお勤めされている方だったため、開催時間も夜の時

間帯で、毎回遅くまで議論が繰り広げられていました。制度外の福祉サービスが必要なことは研究会に参加されている方も、県の職員の方もみな同じように認識していましたが、それをどう県内に広げていくかが大きな課題となっていました。

(次号に続く)

Natural Café+Shop hanahaco



営業日：11時～16時（定休日：火曜）

木更津市矢那 1879-1

電話：0438-38-4368 メール：info@npo-cw.net

Facebook：https://www.facebook.com/hanahaco.k/

まだ間に合う！大人も子どもも楽しめる夏休みの自由研究！

【hanahaco サマーカレッジ】

■貝殻風鈴（シェルリン）を作ろう

実際に海辺から拾ってきた貝殻を使って、貝殻風鈴（シェルリン）を作ります。

日時：8月26日（金）14時～ 参加費：1,500円（ドリンク付・材料代別）

■米袋で米麴を作ろう

米袋を使って簡単に米麴を作るワークショップ。親子での参加も大歓迎です。

日時：8月27日（土）14時～ 参加費：1,500円（ドリンク付）

いずれも詳細はfacebookでご確認ください！

この夏は何かおかしい、猛暑日と熱帯夜が少ない。西日本や北関東では例年のごとく、連続猛暑日が続いているが、この地域では例年よりは過ごしやすい日々が多く、暑がりです寒がりの自分には本当に助かっている。

地球の裏側では、オリンピックの熱戦が繰り広げられている。各国は威信をかけ、選手達が努力の集大成として、心身の限界まで力を出し切っている雄姿は沢山の人々に感動を与えてくれる。その目覚ましい活躍は、お家芸の柔道や体操日本の復活、また、水泳は北島に続けとばかりに頑張っている姿は、後にくる者たちに勇気と希望を与えてくれるであろう。

さて、自分はある月刊誌を購入しているが、自身の仕事に係る記事が掲載されていたので、同じ様な仕事をしている方々に参考になるのではない、一部を抜粋して紹介させて

頂きたい。

それは、「傾聴のスキル」というシリーズで、作者は、心理カウンセラーの岩松 正史さんである。

「話だしたら止まらない人への傾聴」というテーマで、話出したら止まらない人は、感情が溢れかえっている人で、原因として考えられるのは：

①話し手の思いがとても強い
②普段聞いてくれる人がいない

(少ない)
③わかってももらえていない感覚がない

これらの要因が重なりあつて、止まらない話になっていくというものである。

「長話の原因は、聞き手にあるかも知れません」。聞く人が楽に聞ける手法として：

①自分らしい断りの言葉をあらかじめ持つておく、自分が納得できる断り方の言い回しを持つておくことで、聞くこと

も、ストレスも減り、結果として、思っていたより手短に話が済むことが多い。親切な人ほど無理をして聞こうとする傾向があるが、本当に誰かの役に立ちたいなら、自分をちゃんと守れる人でないとできないと心得ておく。

②終わりの時間をあらかじめ伝えておく。話の最中にいきなり「ごめんなさい時間がありません」とはなかなか言いにくいので、聞き始める前に予定時間を伝える。とは言っても突然、

長話が始まってしまう場合、話を遮らずに傾合いを見て、予定時間を伝え、約束の時間の10分前位に「あと10分しかありません、ごめんなさい」と謝るのではなく、「最後の10分です是非聞かせて下さい」と積極的に関心を持つている姿勢が大事、人間の脳は、「謝られても満足しないが、興味を持たれ、感謝をされると喜ぶ」という性質にかかった応答法だのとのこと。

③あいづちの入れ方に工夫をする。わかってももらえたという感覚を持つてもらえば、話が短くて済む、話し手が独りぼっちではなく、二人で話しているのだと感じれば、こちら側の姿勢が伝わり、感覚を共有できることになるというお話である。

文面を適当にはしよっているので、文章の整合が取れない部分はお許し頂きたいが、自分も改めて見直さなければならぬと思った次第である。

(総合施設長 齊藤 操)



きもの地サロン	ヨガサロン	穂垂るの会
<p>着なくなった着物をほどこき、アクセサリー、ポーチ、バッグ、タペストリーなどの小物から服まで、その人に合わせてリメイクするサロンです。</p> <p>開催日：9月12日（月） 9月26日（月）</p> <p>※興味のある方はご連絡ください。 鶉嶺の家（50 - 0285）</p>	<p>健康管理、仲間づくりにヨガをはじめませんか？</p> <p>旧道の岸本薬局の斜め向かいにある「ありさ」の2階で開催中。</p> <p>開催日：9月7日（水） 9月21日（水）</p> <p>※興味のある方はご連絡ください。 ありさ（50 - 0362）</p>	<p>介護している方々が集まって日々の苦労話等を気軽に本音で話し合う会です。</p> <p>開催日時：9月8日（木） 13:30～15:30</p> <p>会場：ふれあいセンター 経費：200円（お茶代） 主催・連絡先：穂垂るの会・井上 (090-7171-1701)</p>

ときがね・街かど福祉塾

「ときがね・街かど福祉塾」は、東金・山武地域の市民や福祉・介護・子育て・まちづくり関係など、人に関わる活動や仕事をしている人たちの学習の場、思いの共有の場、新たな縁（えにし）の場づくりとして実施しています。

東日本大震災以降中断していたものを、昨年10月より、月1回ペースで実施しています。ぜひ、ご参加ください。

対象：興味のある方ならどなたでも
定員：30名

（問合せ先：ちば地域生活支援舎
Tel:0475-53-3630）

《第12回》

「コミュニティビジネスを学ぶ（仮題）」

日時：平成28年8月23日（火）
18:30～20:30

会場：東金市中央公民館・研修室

講師：筒井啓介

（コミュニティワークス 理事長）

《第13回》

「誰もが自分らしく地域で暮らし続けるために・・・あるべき相談支援とは（仮題）」

日時：平成28年9月13日（火）
18:30～20:30

会場：東金市中央公民館・第1会議室

講師：朝比奈ミカ

（中核地域生活支援センター
がじゅまる 所長）

東金ひと・しごと・くらしサポートセンター ころん

当法人では、平成28年5月より、東金市の委託を受け「東金市生活困窮者自立相談支援事業」の業務を開始しました。

概要は、ホームページ又はチラシをご確認ください。

◆営業日・時間

月曜日～土曜日 9:00～18:00

◆相談電話

0475(50)4251

◆メールアドレス

cocoron@ninus.ocn.ne.jp

◆所在地

東金市東上宿3-15



ときがね な ひととき

鴉嶺の家（高齢者・障害者）

暑い日が続き、エアコンや扇風機が活躍する季節となりました。外に耳を傾けると虫の声が聞こえてきて、どんな会話をしているのだろうかと思議に感じます。

最近、鴉嶺の家では、「おはようございます」の後に「今日も暑いですね」という会話から一日が始まります。そんなある日、Uさんが面白いあだ名をつけてくれました。あだ名の理由を聞いたら、とても納得する理由だったので二人で笑ってし

まいました。学生の頃から、色々なあだ名をつけてもらってきましたが、今はこのあだ名が一番のお気に入りとなりました。これからもこんな風に誰とでも何気ないお話で楽しく笑い合っていけたらいいなと思いました。

最近の会話の中に『楽しみ』という言葉がよく出てきます。ある方は、「食事が楽しみ」、またある方は、「今日の送迎スタッフは誰が来るのか楽しみ」や「今日はどのスタッフががいるのか楽しみ」などと、一人ひとり違う楽しみを持つて鴉嶺の家に来て下さることがとても嬉しいです。

もつと楽しみを増やせる雰囲気作りをしていきたいと思います。

鴉嶺の家（児童）

真夏の暑さに負けることなく、元気いっぱい遊んでいる子ども達！

今回はIくんについてのエピソードを紹介したいと思いま

す。Iくんが遊んでいる時、年下の女の子が傍にいてIくんの使っていたおもちゃを見ていると、Iくんが女の子に「はい」とおもちゃを貸している姿がありました。また、Iくんには弟がいます。弟の荷物を運ぶ姿や、一人で寂しそうにしていると傍に行つて寄り添つてあげている姿も目にします。先日は、寝ていることにいち早く気付き、タオルケットを持ってきて体にかけてあげていました。とってもお兄さんらしいIくんです。Iくんだけでなく、他のお兄ちゃん、お姉ちゃんたちも日々周りのお友達を気遣うことが多くなつてきました。

子ども達が集団生活をする中で遊びを通して学ぶことは、日々積み重なつて自分の生きる力や支える力になつて成長していくのだなと思ひました。

このような子ども達の成長を見逃さないよう、スタッフも残りの夏を元気に過ごしていきたいと思ひます。

子ども支援センターぽけっと

夏休みが近づくとぽけっとでは子ども達もスタッフも楽しみにしている事がありません。

それはY君の来所。ぽけっとのご利用の仕方は各ご家庭により異なりますが、Y君は今のところ長期休みでのご利用が多い為、夏と言えばY君というイメージが定着しているようで：「Y君、背伸びてるかな？」「また一緒にゲームしよう！」などの話も聞こえてきて、心待ちにしているとはこういった事なんだなあ嬉しくなりました。

そしてY君が「おはよう」と来所すると皆でお迎え。早速ゲーム好きの男の子達が「背大きくなったね！」と言い、柱で賑やかに背比べをしています。

夏休みは時間も長く、普段一緒に利用することがない子ども達と一緒にいる機会も多くなります。じっくり時間をかけて遊ぶ中で新しい発見が沢山見られ

ます。子ども達それぞれの好きな事、苦手な事。また、好きな環境、苦手な環境等々。○○君つて。○○さんが。とスタッフの目が輝きます。

長い夏休み、子ども達にも、私達にも有意義な時間となるように沢山遊びたいと思います。それにしても今年の夏はやはり暑い！子ども達の体力に負けないように頑張ります！

サポートセンタースピリッツ

社会現象となっている『ポケモンGO』。ポケモンで遊んだことがない私にとってはあまりピンときませんがポケモンで遊んだことがある人にとっては、すごく魅力的なゲームなのでしょう。色々と問題視される声もありますが、先日こんな記事も出ていました。アメリカの自閉症児が『ポケモンGO』を通じて他者との関わりを持ち始めたというものです。ひとつのゲームアプリが自閉症児の人間

関係のツールとして活用できたという事は素晴らしい事だと思えます。いずれスピリッツでも「子どもとポケモンを探しに行ってください」という依頼が入るかもしれませんね。ちなみにヘルパーは仕事中でもちろん自分の携帯でポケモンを捕まえません。安心して下さい、

『ポケモンGO』で遊んでいる方は他人に迷惑をかけずルールを守って遊びましょう(^_^)☆

街かど福祉相談室ると

夏です！生命が活発になる時です。夏休みに入った今は朝から子ども達の声が聞えます。友達同士で出掛けている姿、部活動で学校へ行っている姿、夏の長い休みだからその景色がそこに広がっています。ふと自分が夏休みをどうして過ごしていたかを振り返ってみましたが、断片的には覚えているものの、はつきり何をして過ごしていた

か思い出せません。個人差もありますが人間の記憶って曖昧ですよね。

夏休みに出された宿題の中に日記(絵日記)がありました。当時なぜこの宿題があるのか疑問でした。今思えば記憶を残しておくことだったのでしようか。普段から書いておかないと忘れてしまうことが多く、なるべく記すようにと心がけていますが、ついメモし忘れてしまふと、どうだったか思い出せません。メモしておいても書いたことに満足して忘れてしまふ、または自分の書いた字が読めない等。

私たちの仕事で大切なことの一つに『信用』があると思えます。聞いたことを忘れないよう、しっかり記憶し、記録する。子どもの頃の絵日記が今では日誌やケース記録に代わったのかもしれないませんが、毎日の積み重ねがとても大事であることには変わりはありません。

ハンドワーク

◆生活介護

7月7日は七夕さまだったため、何日前から折り紙で飾りを作り、短冊に願い事を書いたものを笹に楽しそうに飾り付けをしていました。皆さんの願い事が叶うといいですね(^_^)!

梅雨の時期で、ジメジメじとじとする中、散歩にも行けず部屋の中の作業になってしまふことも多数ありました。そんな中、晴れ間を見つけて楽しくハンドワークの周りを散歩してザリガニを見つけ、玄関前にある石の入れ物の中で飼っています。ハンドワークの庭には、カブトムシ、せみなどたくさん生き物が生息しています。田んぼの稲が緑色の穂を出し、自然豊かで自然の良さを感じながら生活支援をしていきたいと思えます。

◆就労継続支援B型

例年よりも少し長めの梅雨が

明け、快晴の空は綺麗な青色の夏！皆様がいかがお過ごしでしょうか？

今、ハンドワークでは8月6日のイベントに向けて、商品の製作に取り組んでいます。今年はおコクラフトに加えて、手作りの布シチュ作りや、ちよつとしたくじ引きにもチャレンジしてみようと、皆で景品を持ち寄ったりしています。

これはどうか、あれはどうかと、いつもあまり話さない利用者さんも興味を持って下さったのか、いつもより多めのお話。「私はあの景品が気になる」、「誰が貰ってくれるかな?」、「可愛いか?」などなど、いつもとは違った雰囲気を楽しんでいる様子でした。

ありさ

地元のお祭りに参加しました!!!

先日、2年に一度のお祭りがあり、地域の青年団の方からお

誘いを受け一緒に参加させて頂きました。

昨年の地区限定のお祭りでは、お神輿が出て「セイヤ」の掛け声で担いでいましたが、今回は山車（お囃子と人形が乗っている車）が出て、区内を引き廻しました。山車には縄が付いていて、それを一緒に引っ張ったり、山車を後ろから押させてもらうメンバーもいました。山車は狭い道を行き、交差点や曲がり角に来ると前（前輪）を持ち上げ後輪でウィリー状態のまま曲がるという、何ともダイナミックな動きで、間近で見えたお手伝いに来て下さったお母さん方も初めての光景に驚いていました。

お祭り好きが多いありさメンバー、地域の方々としつかり交流していました。岩崎区の皆様、今回も参加させて頂き本当にありがとうございます。



五根の家

◆小規模多機能ホーム

雲一つない青空と、賑やかな蝉の声に夏本番を感じるこの頃ですが、連日の猛暑で熱中症に気を付けながらこの夏を乗り切りたいと思います。

先日、ナルク東金の皆さんと地元の方が協力して下さり、お年寄りの方々と一緒に庭の草取りをしました。暑い中での作業でしたが、皆で行いあっという間に綺麗になりました。暑さの為、お年寄りの方へのお誘いは少し控えていましたが、自ら参加されたお年寄りから、『他にも呼んでくる!』とお仲間を掛けられ5〜6名程参加し、

普段聞けないような昔の話をされながら、得意な作業をそれぞれにされていました。スタッフよりもカマの使い方が上手で、季節の違いを感じました。その後、あるお年寄りのご家族からお花を頂き、玄関先にプラントーと直植えをしました。『これは娘が持ってきたの?綺麗なね』とそこを通る度に笑顔で話されたり、毎日の日課で水やりをされる方もいます。雨が降ると残念がついています。雨が降るとこれから皆さんと少しずつ、玄関先をお花等で綺麗にしていきたいです。

◆グループホーム

今年、暑くて雨が降らない日が続いていましたが、7月中旬ごろからようやく梅雨らしくなってきました。これから本格的に暑い日が続きますが、熱中症等に気を付けて楽しく過ごしていけるようにしたいと思います。

7月は七夕やお誕生日会と催し物が続きました。

七夕ではスタッフがお手伝いをして、お年寄り一人ひとりの願い事を聞いて短冊に書きました。男性のHさんは『スタッフと結婚したい』と書かれ、歳を重ねても気持ちは若くお元気ですね(^-^！)

お誕生会では、スタッフ手作りのロールケーキを5段重ねにしてデコレーションし、皆さんでお祝いしました。主役のFさんは皆さんの声掛けに、「ありがとう〜！」と何度も言われ、終始ニコニコでした。Yさんは、「このケーキを子どもに買っていきたい」と言われ、いつになっても子どもを想う親の気持ちは変わらないんだなあと感じました。

これからも一人ひとりの笑顔を大切にしていきたいです。

地域福祉情報・相談センターりんく

営業：午前10時〜午後8時
場所：東金ショッピングセン

ター「サンピア」内1階
(ステージコート脇)

ハンドワークからのお知らせ

ハンドワークではfacebook（フェイスブック）を始めました。普段の活動内容や、商品・イベント情報などを発信しています。まだ始めたばかりですが、これから内容の充実を図っていきたいと思います。興味のある方は、是非フェイスブックをご覧ください。

検索は ⇒ facebook ハンドワーク ARISA

内容：福祉、介護、子育て、ボランティア・市民活動
に関する情報提供、相談
★福祉・介護・子育て等に
関する情報の掲示・配布
をご希望の方は、本会まで
ご相談ください。
詳しくは、総務・企画課まで
ご連絡ください。
(0475-53-3630)

スタッフ募集

子どもや障がい者、お年寄り等、人に関わる活動に興味のある方、一緒に働きませんか？

日数・時間・曜日・内容（介護・保育・支援・食事づくり・清掃など）・年齢等ご相談に乗りません。

興味のある方は、ぜひ当法人にご連絡ください。
(0475-53-3630)

ボランティア募集

趣味や特技、仕事を通じて身につけたスキル、体力等、自分らしさを生かしたボランティア活動をやってみませんか？

ボランティア活動を通じて得られる効果は無限大です。

子どもや障がい者、お年寄り等、人に関わる活動に興味のある方は、ぜひ当法人にご連絡ください。
(0475-53-3630)

編集者のつぶやき

相模原の事件で、亡くなられた方、ご家族、身近で支えられてこられた方々、本当に無念であったろうと思います。このような事件が、二度と起こらないようにするために、今私たちができることはなにか？答えは、そう単純なものではないでしょうが、いろんな意味で、「孤立」をつくらず「関わり続ける」ことしかないのかもしれない。

亡くなられた方のご冥福をお祈りいたします。(jerry)

夏休みで鶺鴒にきている子どもたちがお庭のプールで楽しそうに遊んでいるのを見ると涼しそうに羨ましくなります。私も一緒に水遊びしたいな〜と思いながら脇を通ったら水鉄砲で水を掛けられてしまいました(笑) 暑さにも負けない元気をいつもありがとうございます。(W)



ちばしゃ通信 (Vol.22)

発行日：2016年8月19日
発行元：ちば地域生活支援舎
編集責任者：宮下・太齋
連絡先：0475-53-3630